

平成20年度霞ヶ浦の水質概況について

平成21年7月24日（金）
生活環境部 環境対策課

平成20年度のCODは、全水域平均として8.7mg/Lとなり、19年度（8.8mg/L）とほぼ同水準であるが、やや減少した。（表1）

CODの変動は、植物プランクトンの増減に関係しており（図1）、平成19年度の夏以降に増加した糸状ラン藻類は、平成20年度においても、優占種として推移したため（図2）、CODも前年同水準になったと思われる。

また、湖内の全窒素及び全りんについてはやや上昇傾向が見られた。（表2、3）

流入河川の水質について、COD、西浦流入河川の全窒素、及び全りんでは概ね横ばいもしくは改善傾向にあり、生活排水対策等の効果が現れているものと考えられる。北浦流入河川の全窒素は、依然として高水準にあるが20年度は減少が見られた。（図3、4、5）

表1 CODの年間平均値 (mg/L)

水域/年度	13	14	15	16	17	18	19	20
西 浦	7.7	7.3	7.5	7.8	7.6	8.2	8.5	8.4
北 浦	8.5	7.8	7.7	8.3	7.7	8.4	9.5	9.3
常陸利根川	8.2	7.8	7.2	7.7	7.4	8.1	8.8	8.7
全水域平均	8.0	7.5	7.5	7.9	7.6	8.2	8.8	8.7

表2 全窒素の年間平均値 (mg/L)

水域/年度	13	14	15	16	17	18	19	20
西 浦	0.89	0.96	0.95	1.2	1.1	0.99	1.1	1.4
北 浦	0.88	0.86	0.88	1.5	1.1	0.93	1.2	1.3
常陸利根川	0.87	0.97	0.84	0.92	1.0	0.83	1.1	1.2
全水域平均	0.88	0.93	0.91	1.2	1.1	0.93	1.1	1.3

表3 全りんの年間平均値 (mg/L)

水域/年度	13	14	15	16	17	18	19	20
西 浦	0.11	0.12	0.11	0.10	0.11	0.10	0.10	0.11
北 浦	0.10	0.095	0.099	0.13	0.092	0.11	0.13	0.16
常陸利根川	0.086	0.087	0.083	0.088	0.093	0.096	0.11	0.12
全水域平均	0.10	0.11	0.10	0.10	0.10	0.10	0.11	0.12

湖内水質の推移

図1 霞ヶ浦におけるクロロフィルaとCODの変化

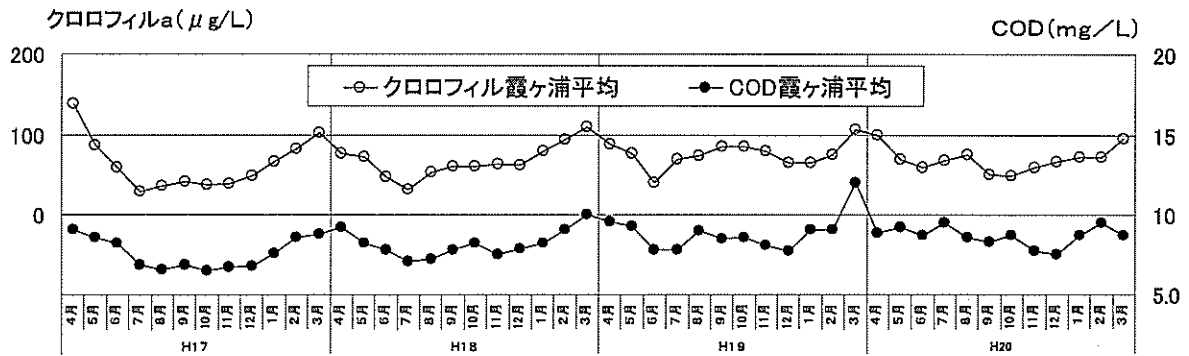
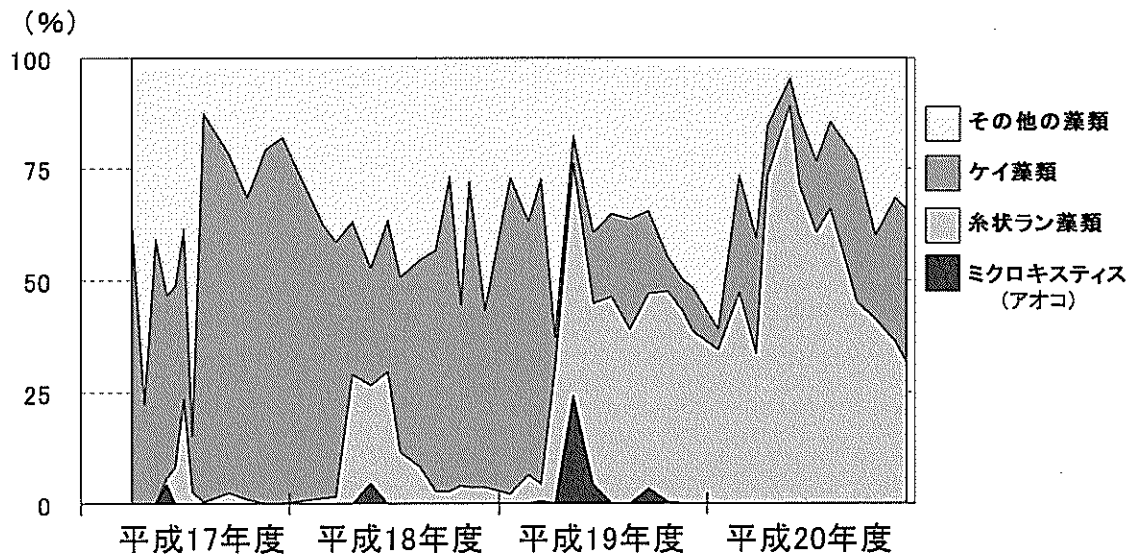
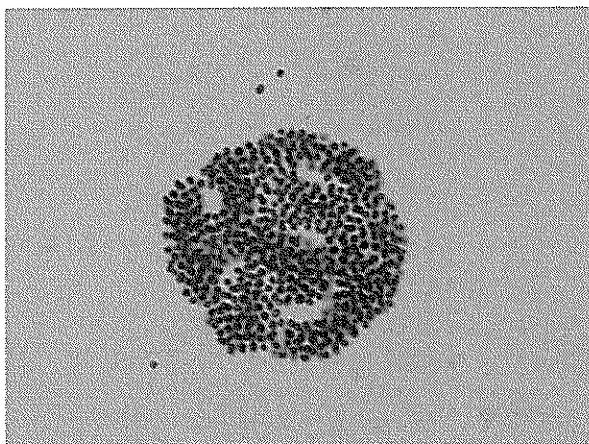


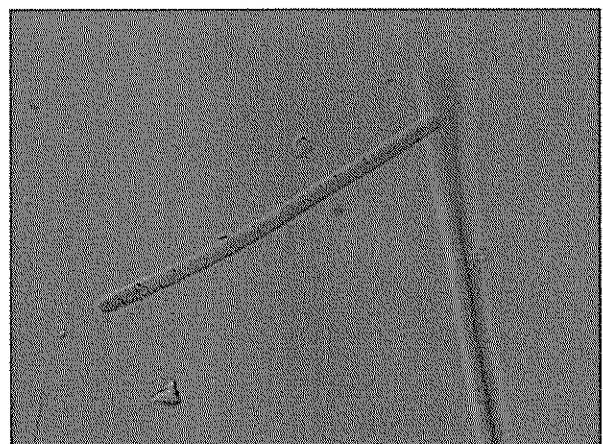
図2 霞ヶ浦（湖心）における植物プランクトンの優占種



(参考) 霞ヶ浦で確認される代表的な植物プランクトン



マイクロシステリス



フォルミディウム（糸状ラン藻類）

流入河川水質の推移

図3 流入河川のCOD

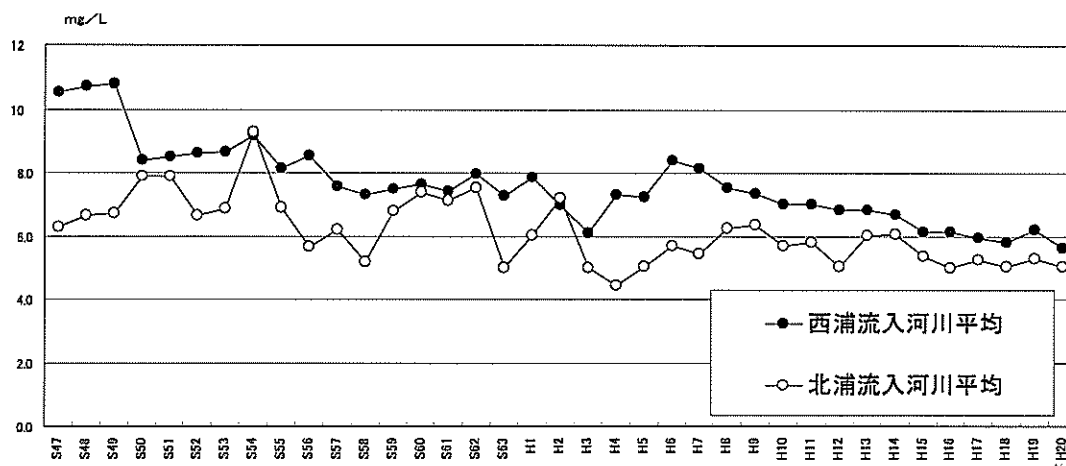


図4 流入河川の全窒素

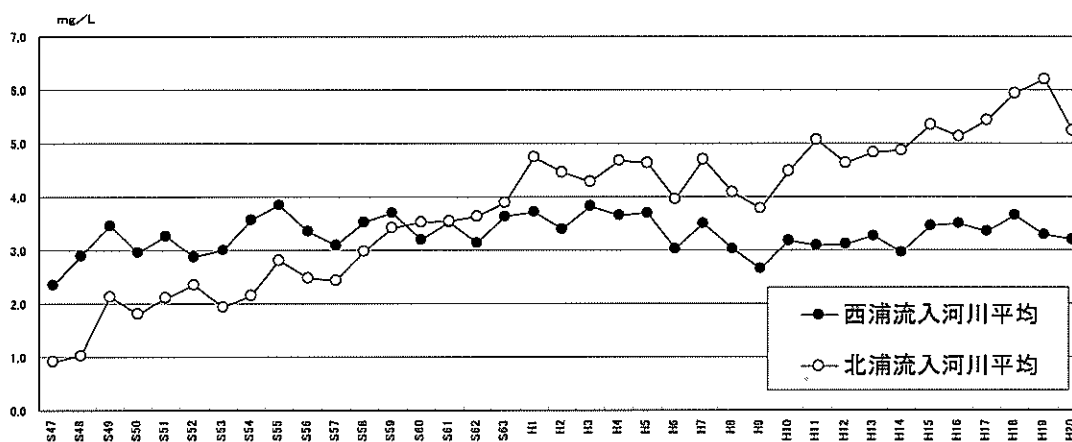


図5 流入河川の全りん

